

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における図画工作科の取り組み

八重瀬町立具志頭小学校

教諭 與儀留美子・上原 教子

1 はじめに

本校は沖縄県本島南部の八重瀬町字具志頭に位置する、創立 141 年を迎えた全校児童 485 名の学校である。旧具志頭村に在した仲本 稔氏の制作した、沖縄県の勤労の精神を唄った「汗水節」があり、本校では、「汗水節の心を行動に」を掲げ、清掃時にも「汗水節」を聞きながら日々活動している。

「自ら学び 夢に向かってともに伸びる心豊かでたくましい子」を学校教育目標に、児童の自主的な活動を目指している。

2 図画工作の取り組み(図画)

(1) 題材選びについて

- ・低学年においては、生活の中で自分が体験した、朝顔や野菜の観察、昆虫採集、水あそび等を皆で共有することで、楽しかった思い出を想起させる。
- ・中、高学年においては、クロムブックを活用し、自分が描きたいものを撮影してテーマを決める場合もある。

(2) 構図について

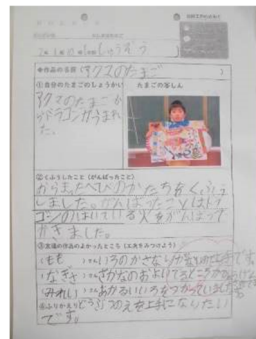
- ・絵は、自分の思いを自由に表現していいことを伝え、「思い」が伝わるように、アドバイスをするようにしている。
- ・人物画では、実際に自分の体をさわり、肩から手が伸びていることや、手や足の長さに着目させ、目の瞳の位置や口の描き方で、表情が変わることを確認している。
- ・風景画では、遠近法を用いた構図の見本を見せることで、奥行きのある絵が描けることを伝えるようにしている。

(3) 色づくり

- ・低学年では、クレヨンの力の入れ方や持ち方で線の太さや濃さが変わり、色を混ぜたりぼかしたりすることができることを教え、クレヨンのいろいろな技法を使いながら、描くことを楽しんでいる。
- ・使う絵の具の量やパレットの使い方、水の量で色が変換ること、大小の筆の使い方等を、発達段階に応じて随時指導している。
- ・自然にはたくさんの色があり、色作りを体験させることで、新しい発見をさせている。

(4) 鑑賞について

- ・自分の作品の紹介と、がんばったこと、友達作品の良い所を見つけ、今後の表現に生かすことができる。



【鑑賞カード】

3 おわりに

この度は、伝統のある展覧会で文部科学大臣賞をいただき、大変うれしく思います。

児童の作品の発表の場として、積極的な参加を呼びかけました。賞状をいただけることが、児童の自信と意欲につながっています。

文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

本校における美術科の取り組み

船橋市立宮本中学校
美術科担当 伊藤ありさ

1 はじめに

本校は、千葉県の中核都市である船橋市の中心部に位置しており、交通至便ながらも閑静な住宅地に囲まれている。学区に県内屈指の進学校である県立船橋高等学校やスポーツ強豪校として知られる市立船橋高等学校を有する文教地区である。生徒数は増加を続けており、近年は1,000人に届きそうな大規模校である。

2 本校の取り組み

授業においては常に「学習目標」の明示をしている。これは、生徒が常に明確な目標をもち、主体的に制作に取り組むための環境作りの一つと考えている。このほか、主体性を育むための授業の取り組み例を以下にあげる。

①ICT 機器の活用

政府のGIGAスクール構想の取組を受け、生徒に配布されたPCを積極的に取り入れている。とりわけ授業における生徒の相互鑑賞への有効性を実感している。

生徒が作品を制作していく過程で、互いの作品を鑑賞することにより共感や共鳴、自他を認めることは重要である。従来は鑑賞の時間を設け、校内掲示していたが、生徒の作品を写真に収めデータ化し、ロイロノートで閲覧できるようにしたことで、生徒はより多くの作品に触れるなど鑑賞から学ぶ時間が格段に増えた。同時に、授業において作品の制作時間を確実に確保できるようにもなっている。

②ポートフォリオの活用

生徒の作品のデータ化は、他者の鑑賞だけではなく、自身の制作にも大きな影響を与えている。作品制作の時間は限られているがその中で、例えば制作に長時間を要するような場合、作品と向き合う中で芽生える心の動き、変化をその過程で記録していくことで、生徒は再確認するようになった。その結果、「思い・感情・気持ち」をより濃く反映させた作品制作に意欲的に取り組むことができるようになった点は大きな収穫であった。

③デザイン案などの発想の過程を重視

作品制作はもとより、それを具現化するデザイン案制作を授業の中でも特に重視している。アイデアが生まれ、形となっていくその過程を、生徒が自由に記入できるよう大きめの用紙を準備することを心がけている。こうした自由な創造力を育む「環境整備」こそが、豊かな表現力につながると思っている。

3 おわりに

本年度「画の部」における「中学校部門 文部科学大臣賞（団体の部）」の受賞は大変光栄であり、同賞を学校全体の励みとし、また生徒一人ひとりの作品制作に向かう意欲につなげていきたいと考えている。

